



みるみる！
ういやるん！



ご自宅で行える体操の動画を作成しました！

日本国内で新型コロナウイルスの出現に伴い、新たな生活様式を実践していく必要があります。新型コロナウイルス感染症対策には、自らを感染から守るだけでなく、自らが周囲に感染を拡大させないことが不可欠です。そのためには一人ひとりの心がけが何より重要です。

これまで大勢でにぎやかに行っていた運動も、少人数で行うことが奨励されるようになりました。また、外出を控えご自宅で過ごす時間も増えております。そこで、ご自宅でお一人でも簡単にできる運動をご紹介します。動画を作成いたしました。

動画は15分程度の運動です。内容は体を柔らかくするストレッチ体操と筋力強化運動です。無理なくできる運動を選んでいただければと思います。

この動画が少しでも皆様の健康増進にお役に立てれば幸いです。

(文/リハビリテーション科・長島)



お家でできる
簡単体操 上肢編



お家でできる
簡単体操 下肢編



お知らせ 感染対策強化月間を継続！

7月以降も当面の間、感染対策強化月間を継続していきます。

例年、さまざまなイベントを企画しておりますが、感染対策徹底により自粛しております。何卒ご了承ください。イベント再開の目処が立ちましたら改めてお知らせいたします。

編集後記

今回から、はなみずき編集部のメンバーが新しくなりました。多職種のメンバーで構成されておりますので、様々な視点から皆さまへ興味を持っていただける誌面となるように、頑張っておりますので宜しくお願い致します。

梅雨は、曇りが続き鬱々とした気分になりやすいですね。夏も間近ですが、コロナ禍で自宅にいる事が多く、ストレスも溜まりやすいと思います。ストレス解消に、体を動かしてみませんか？自宅でも出来る体操の記事に載せていますので、是非試してみてください。身体も心もリフレッシュして、爽やかに乗り切りましょう！

(文/看護師・高橋)



vol.63

令和3年
7月1日発行

所沢ロイヤル病院

はなみずき

病院理念

私たちは安全で良質な医療、
心のこもった看護・介護、地域社会との連携を目指します。

一生懸命、頑張ります!!



リハビリテーション科・令和3年度新入職員

発行

医療法人 啓仁会 所沢ロイヤル病院 広報委員会 はなみずき編集部

〒359-1152 埼玉県所沢市北野三丁目1番地11 TEL:04-2949-3385 FAX:04-2949-7872

看護部長からのご挨拶

4月より現職川看護・介護局長より、看護部長のバトンを受け取りました。コロナ禍でもあり、責任を重く受け止めております。昨年は、COVID19のクラスターにより、皆様に大変なご心配をおかけしました。そして、今は、面会制限にご協力いただき感謝申し上げます。一日も早く面会ができる日が来ることを願ってやみません。

「この病院に入院して良かった」

所沢ロイヤル病院を利用される患者さん、ご家族の皆様にもそう思っただけでなく安全で良質な医療、心のこもった看護・介護を提供したい。それが、この病院職員の一一人の働く姿勢です。

当院の看護・介護職員の強みは、患者さん一人ひとりの「思い」「価値観」を大切に、自分たちに今何ができるかを真剣に考えて実践しているところです。これは、病院が大切にしているチーム医療への推進力、地域医療機関との連携力になっています。今後さらに、少子高齢社会を迎え、私たち回復期・慢性期医療を担う病院の役割は重要になります。利用される患者さん、ご家族とご縁があって出逢い、その方の人生の中のほんの一時ですが、時間を共有させていただいています。その時間を大切に、丁寧に向き合えるよう、知識・技術・実践力を身に着けた看護・介護職でありたいと思います。

当院を利用される患者さん、ご家族の尊厳と権利を尊重し、この地域でサステナブルに医療を提供できる組織となるよう看護部も努力してまいります。



看護部長
認定看護管理者 吉村 紀代



認知症サポーターの活動について



認知症とは記憶障害だけではなく、今まで出来ていたことが出来なくなり、社会生活に支障をきたしてしまう状態です。2025年には高齢者5人に1人が認知症になるとも言われています。

当院の認知症サポーターは専任医師

1名、各病棟に研修を受けた看護部3名以上で構成されています。認知症のある方は入院による環境変化により意識が混乱し、認知症状が強く出ることがあります。入院してきた時に、その方の疾患、飲んでいる薬、入院前の生活、家族関係や環境、行動面、精神面などどのような認知症状があるのかについて、多職種でカンファレンスを行い、認知症の悪化予防と治療がスムーズに受けられるように働きかけています。チューブを抜いてしまうから、動いてしまて危ないから…身体抑制が必要な場合もあります。



しかし、すぐに抑制をするのではなく傍に付き添ってみる、本人の気持ちに寄り添う、人としての「尊厳」を傷つけないように関わることを大切にしています。患者様、ご家族が「ここ」で良かった!と安心して入院生活を送れるようにこれからも活動していきます。

(文/看護部長・西川)

お風呂プロジェクト

当院に入院されている患者様の多くは、入浴に介助が必要です。日本人は、お風呂好きと言われているようですが、入院生活をされている患者さまにとっても入浴の時間は楽しみの一つでもあります。スタッフもそれに応えようと心掛け、介助に携わっています。患者さまに心地よさを感じて頂きたい! 出来ることはもっと無い? を皆で話し合い、という思いを形にするべく、当院では昨年「お風呂プロジェクト」というチームを立ち上げました。

そして、今年度より新しい機体浴「セレーノ」が1台導入されました。一番の特徴は、ミストシャワーという機能です。今までの、お湯につかるという温まり方から、ミストによって全身を温めることが可能になりました。寝たきりの方や拘縮でお湯につかることが困難な方、全身浴では心肺負担になる方などにも十分に体を温め気持ちよさを感じて頂けます。

当チームは、患者さま一人一人の特徴に合わせた適切な使い方を話し合いながら快適な入浴時間を過ごしていただけるように努めて参ります。

(文/ケアワーカー・大和久)



(職員による入浴体験状況)

